

# 目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[説明](#)

[要約](#)

## 概要

Intelligent Content Manager (ICM) ルーターが CallType スキル グループ (CTSG) およびコールタイプ プライオリティキュー (CTPQ) マッピングをどのように判別する、そしてどのようにそれを解決できるかこの資料に記述されています。

PING Qiu、Mohini Das およびジム Kotelly、Cisco TAC および BU エンジニアによって貢献される。

## 前提条件

### 要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- ICM

### 使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアのバージョンに基づくものです。

- ICM 8.5 以上に

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。対象のネットワークが実稼働中である場合には、どのような作業についても、その潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

## 背景説明

現在 ICM ルーターは 32bit アプリケーションであり、最大メモリはです 2 GB 割り当てることが可能です。多量のコンフィギュレーションによる A からの B または B への状態転送を druing ルーターはに A クラッシュします。それ故に、サポートされた最大値の下に ICM メモリ クラスのそれぞれを確認することは非常に重要ありますです。

## 説明

- 問題 [CSCuq36098](#) ごとに、最大 CTSG はルータ サポートをです 30,000 記録します。これはハードコード値で、変更することができません
- ICM introduced 精度キューの以降のバージョン。マッピングする Calltype 精度キュー (CTPQ) は CTSG に匹敵します

• CTSG または CTPQ レコードはコールが特定の CallType からの PQ/SG にキューに入るか、または発信されるとき動的に作成されます。これらのレコードは日の終わりに老化します  
これは caculate へ数式 CTSG か CTPQ です:

コール タイプ = CTs の数

スキル グループ = SG の数

精度の数は = PQ 並べます

スクリプト = MS のマッピングの数

$$CTs \times (SG + PQ) \times MS = CTSG \text{ レコード (最大)}$$

例えば: スクリプト 500x20x3=30,000 レコードの 500 CTs、20 SG/PQ および 3 つのマッピング。

**注:** スクリプトのアクティブなバージョンだけマッピングに貢献します。ICM スクリプトの非アクティブバージョンはメモリ 割り当てに貢献しません。ルータはスクリプトのアクティブなバージョンだけロードします

- ルート SELECT ノードはまたマッピングする CTSG か CTPQ に貢献します
- `rttest`ユーティリティによって CTSG/CTPQ マッピングを監視できます。

`dump_CTSG_stats [/calltype] [/group] [/pq] [/help] [/か。]`

- メモリ クラスを監視する他のコマンド:

`rttest: mem_meters /classes`

## 要約

ICM ルータは動的にアクティブスクリプトに基づいて CTSG および CTPQ をマッピングします。ルータは CTSG/CTPQ が 30,000 にある場合クラッシュします; CTSG/CTPQ の数が記録する `estimte` にこの数式を使用して下さい:

$$CTs \times (SG + PQ) \times MS = CTSG \text{ レコード (最大)}$$